

■ VISTA 5 ユーザーレポート

株式会社 TVQ 九州放送 様

VISTA 5



第1スタジオサブを2台目のVISTA 5で更新



株式会社TVQ技術センター
技術部
武内 貴志

制作サブ更新

2007年3月のニュースサブの音声卓更新に続き、制作サブである第一スタジオのHD化設備及び音声設備の更新を行いました。今回の音声卓更新にあたって重視したのは、オペレーターの負担軽減、イニシャルコスト&メンテナンスコストの削減でした。また、ニュースサブと違い生放送の比率は少ないのですが、多彩な収録にも対応できる汎用性を視野に入れ、MIC入力数やフェーダー数を充実させたシステムを検討しました。

デジタル音声卓も各社魅力的なモデルが増え、いろいろな観点から検討してみましたが、VISTA 5は既にニュースサブで使用しており、また安心して使えるわかりやすい音声卓ということで、再度VISTA 5の42フェーダー仕様を採用することにしました。実績だけで選ぶのもやや日本的で面白みに欠けますが、音声卓はスイス製で舶来品です。舶来品であるが故、ニュースサブ更新のときは余計な心配もしましたが、結局は窓口やシステム設計はJAPANなので何の問題も無いどころか、JAPANスタッフの皆様の実験と知識と人柄(笑)を生かし、こちらの無理難題を解決して

頂きました。また、今回はVISTA 5 SRのパネルの角度の違いを参考にして、デスク用卓台を若干角度を持たせて製作していただきました。卓台のメーターブリッジには、作業性を重視しつつVUメーターユニットやサラウンドスコープ、表示灯パネルなどをすっきり組み込んでもらいました。

家は二度建てないと・・・

音声システムに関しては、基本設計の部分はニュースサブ導入の経験を生かして考えればよく、驚くほど最小限の打ち合わせで済ませることができました。私達は制作サブならではの性格付けの部分だけに全力投球すれば完成という段取りでしたので、まったく心配していませんでした。もちろん自分達もVISTA 5のことをある程度知っていたこともあり、極めて順調に設定作業等も進み、無事に運用が開始されました。昔から「家は二度建てないと納得いくものは出来ない」という言葉がありますが、今回はニュースサブの時と同じ設計士とともに充実した時間が過ごせ、納得いくものが出来上がったと思います。

VISTA 5について

但し、VISTA 5にも不満がないわけではありません。まずモニター周りに余計なボタンが多いのが気になります。海外ではゼヒモノなのでしようが

うちでは不要な場合があります。基本的に使わないボタンは見ない事にしていますが・・・。また、スピーカー切替のメイン、ニアフィールドのうち、5.1chサラウンドのモニターがメインでしかできないのはいただけません。現状ではステレオMIXでの運用がほとんどですので、我々としてはニアフィールドで5.1chスピーカーを構築したほうがピンと来ます。まあ、ボタンの表記の問題なので、実際はそんなに気にしてませんが、と、このような小さな不満は少々ありますが、音声担当者からはおおむね好評な卓です。

ニュースサブのVISTA 5はソフトウェアのバージョンをあえて上げずに運用しています。機能的にも十分ですまったく問題もなく、何よりも安定した運用を第一に考えているからです。しかし、今回新たに導入したVISTA 5に搭載されている最新ソフトウェアは、サラウンドチャンネル機能が充実していたり、ピンテージダイナミクスが設定できるようになる等、基本的な部分は変わりなく、地味ながら便利で凄いい機能が加わっているという印象で、こういったところがデジタル卓の美点であると改めて感じました。この最新ソフトウェアも納入時からテストランを経て、問題なく快適に稼働していますので、折を見てニュースサブのVISTA 5もバージョンアップしようかと考えているところです。